

令和3年度第2回小牧市交通安全・防犯対策協議会会議記録

- 1 開催日時 令和3年10月14日(木)
午前10時00分～午前11時15分
- 2 開催場所 小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
- 3 出席者 野々川和明 外18名
《事務局》
市民生活部長、市民生活部次長、市民安全課長、
市民安全課主幹、交通防犯係長、交通防犯係
《小牧警察署》
小牧警察署交通課長、生活安全課長、交通課
- 4 報告 (1) 小牧市における交通事故及び犯罪発生状況について
(2) 「交通安全」「防犯」ポスター・標語の選定について
(3) 防犯関連の補助金の見直しについて
- 5 議題 自転車乗車用ヘルメットの普及等について
- 6 議事内容

(長縄課長)

本日は、大変お忙しい中ご出席いただき厚くお礼申し上げます。それでは、只今から、令和3年度第2回小牧市交通安全・防犯対策協議会を開催いたします。本日の司会を担当します市民安全課長の長縄です。よろしくお祈りいたします

従来市民憲章の唱和をお願いしていますが、新型コロナウイルス感染症の予防のため、皆様での唱和を省略させていただきます。また、発言の際はマイクをご使用いただきますが、その都度職員がアルコール消毒をさせていただきます。

次に、議事に入ります前に報告させていただきます。当協議会は、「小牧市交通安全防犯対策協議会規則」の第5条に基づき、公開が原則となっております。議事に入ります前に報告させていただきます。当協議会は、「小牧市交通安全防犯対策協議会規則」の第5条に基づき、公開が原則となっておりますが、本日は傍聴者がおりませんでしたので、傍聴者不在で進行させていただきます。

それでは、野々川会長からごあいさつをいただきます。

(野々川会長)

改めまして、おはようございます。新型コロナの感染について、減少傾向にはありますが、手洗いうがい等感染対策に努めていただければと思います。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席賜り、ありがとうございます。各委員におかれましては、各団体で 交通・防犯対策事業にご協力いただき、厚く御礼申し上げます

最近の社会情勢の中で、交通・防犯の課題は非常に重要です。小牧市が住みよく、楽しい町となるよう、交通・防犯事業の推進にご協力をお願いします。

報告事項及びヘルメットの議案がありますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。

(長縄課長)

ありがとうございました。以降の議事進行を会長にお願いします。

(野々川会長)

お手元の次第に基づき、議事を進行させていただきます。それでは、次第1の報告をお願いします。

(山本交通課長)

10月13日現在の県下の状況ですが、交通事故死者数80名で前年対比マイナス39名と減少傾向にはありますが、全国的にはワースト7位となっています。

小牧市は8月末現在で、交通事故死者数マイナス3名、人身事故の負傷者はマイナス24名となっています。平成28年以降減少傾向にあります。

学区別死傷者数は村中、北里、小牧の学区の順に多発しており、村中、北里学区は国道41号が含まれ、数字を押し上げられています。

道路形状別では、交差点、交差点付近で、人身事故が159件と、事故全体のほぼ半分と多発しています。道路の交差する箇所が、危険ということ

がわかります。

高齢者については、自転車利用中よりも、四輪車利用中の事故が当市では多くなっています。

県全体として、高齢者、歩行者、自転車、交差点を抑止の柱として、広報啓発、指導取締り、交通安全施設の整備を事故抑止のために実施しています。

小牧警察署も横断歩行者の妨害、交差点の一時不停止、速度超過、飲酒運転について、重点違反として取締り等しています。

自転車・歩行者の65歳以上の高齢者、お子さんなどを守るため、横断歩道の取締りを強化しています。

横断歩道の手前45m、30mのところにダイヤモンドを設置し、横断歩道の予告をしているので、運転者に速度を抑えるようアピールしています。横断歩道の前で、待っている人がいれば、必ず車両は止まらないといけません。

夕方の5-7は魔の時間と言われるとおり、5時から7時頃に交通事故が多発します。今後日没が早まるため、10月中は午後4時半、11月以降は4時にヘッドライトを点灯して貰うよう、啓発していきます。

(永井口生活安全課長)

犯罪情勢について、前回の報告と傾向はほとんど変わっていません。8月末現在の刑法犯認知件数について、減少傾向にあります。主要罪名等の占有率について、自転車盗、万引きが3分の1を占めています。住宅対象侵入盗についても、概ね減少傾向にあります。

特殊詐欺は増加傾向にあり、昨年の同時期で4件、本年はすでに15件発生しており、被害金額も2,000万円を超えています。高齢者を狙った悪質な犯罪であり、社会的反響も大きいことから、対策を検討していく必要があります。

県下において、刑法犯認知件数はワースト7位、中核都市に続いて、多くなっています。お店への侵入盗は32件、ワースト11位となっています。犯罪率については、ワースト3位となっています。小牧市の犯罪自体は減少傾向にありますが、県下全体として減少傾向にあります。

自転車盗について、前回の対策協議会でお話がありましたので、詳しい

資料を用意しました。過去 10 年間の自転車盗の認知件数については、緩やかな減少傾向にあります。場所別発生状況について、特徴として、1 戸建て、共同住宅が多く、半数以上が、自宅の駐輪場で盗難に遭っています。

盗難時、無施錠状態が多く、県の平均よりも無施錠率が高くなっています。家においてあっても、安心せず、高い防犯意識を持って、自宅でも施錠して貰えるよう啓発していきます。

(林交通防犯係担当)

報告事項(2)「交通安全」「防犯」ポスター・標語の選定についてです。前回の対策協議会で報告しましたが、交通安全・防犯について関心を深めてもらい、広く市民に呼び掛け、意識向上を図るため、小中学生から夏休み期間に「交通安全」「防犯」のポスター・標語を募集しました。ポスター 605 点、標語 577 点の多数の応募がありました。

その中から、本日「特別賞」各 5 点・「入選」各 15 点程選定させていただきます。標語については、本日提出いただいた委員の皆様の採点を元に、決定します。ポスターは、本日優秀なポスターにシールを貼っていただき、その結果をもとに決定します。同点の場合等は、事務局に一任頂き、小牧警察署とも相談の上、決定します。

なお、特別賞は巡回バス「こまくる」にラッピングします。標語についても、担当課と調整の上、可能な範囲でラッピングします。また、啓発品等にポスターの絵を印刷したり、標語を印字予定です。また、特別賞・入選ともに、表彰状及び記念品を贈呈予定で、まなび創造館の展示ギャラリーで、11/20 から 11/24 まで、作品を掲示予定です。

続いて、報告事項(3) 防犯関連の補助金の見直しについてです。前回の対策協議会の議題の通り、防犯対策補助金については、インターフォンを廃止し、事業者の防犯カメラも適用可能とする予定で、進めています。最大 30 万円交付する事業者防犯カメラについては、防犯対策補助金に統合された場合、廃止する予定です。

地元区が公共空間に対して防犯カメラを設置する地域防犯カメラの補助制度について、事業開始から 5 年以上経過し、補助金を受けて設置した防犯カメラの不具合が発生したり、サポートが受けられない状況が出てきました。同一箇所での新品への交換についても、要綱を改正し、認める方向

で検討しています。また、制度開始当初より、年数が経過し、防犯カメラの設置も安価になっています。補助上限額 20 万円はそのまま、同時に 2 台以上の設置も認められよう要綱の改正を進めます。なお、この報告事項は予算にも大きく関わるため、財政部門との調整の結果、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

(野々川会長)

ただいま説明のありましたことについて、ご意見ご質問等がありましたら、お願いします。

(鈴木委員)

自転車の事故、窃盗等について、防犯カメラで撮影し、抑止になった事例はありますか。

(丹羽主幹)

防犯カメラの記録画像は捜査情報となり、具体的な件数等は持ち合わせていません。防犯カメラは、犯罪抑止の観点で、大変有意義なものであり、普及促進は重要と考えています。小牧市で管理している防犯カメラも警察から要請があれば、画像データをお渡ししています。警察からも犯罪捜査の上で、防犯カメラの重要性について、訴えられております。

(舟橋委員)

交通事故発生状況、学区別死者数で、北里地区が多い理由として、41号線は予想していましたが、お願いしたいのは、アマダの跡地に例えば運送業者が入って来た場合、大型貨物の通行量が大幅に増えます。児童の通学時の注意が必要となるため、学校と連携して、安全対策をしてほしいと思います。可能であれば、事前に行政から働きかけも期待したい。

また、41号線は、沿線に住む住人は走りにくく、信号の連携が悪く、度々停まるため、結果、抜け道の利用が増えています。

最後に、41号線の右折レーンが、向かい側の対向車が見えるよう車線改良があったが、事故の抑止に繋がっているのであれば、他の大型交差点でも導入して貰いたい。

(山本交通課長)

小牧市は大手企業、運送会社が多く、貨物車の通行も多いのが現状です。41号線沿線の運送会社等から直接出入りする出入口はあっても、他の道路を経由して、41号線に入って貰うなど、事故を抑制する取組を検討したいと考えています。過去には暴走族対策で、あまりにスムーズに流れすぎないように、調整している部分があります。一方で、渋滞対策をふまえ、交通量を調整しています。

41号線の交差点の右折レーンの変更は、見やすくなること、また、右折時の距離が短くなり、渡り切る時間が短縮できることから、速度の出しすぎを抑制するなど、メリットも大きいと考えています。

(野々川会長)

交通課でも、対策を検討して貰えばありがたいです。ただ、道路改良自体はすぐには難しいと思いますので、まずは現状にあわせた対策をお願いします。

(松葉口委員)

防犯カメラについて、地域によって設置間隔が異なります。設置者について、教えてください。

(内堀交通防犯係長)

市内で設置しているものの中で、市、区、個人・会社等設置者は様々です。地域防犯カメラ補助金で、区に対しては補助しており、自宅の補助は、防犯対策補助金で補助しています。市役所で全て設置、維持管理することは予算的にも困難です。場所によって、設置する防犯カメラの種類、設置者も変わってきます。

(松葉口委員)

子ども110番について、状況を確認したところ、高齢で辞めたい、又は新規で始めたいなど、様々な声を貰っているので、対応方法を教えてください。

(永井口生活安全課長)

警察、学校と各々実施していますので、どちらに相談いただいても構いません。

(野々川会長)

続いて、次第2の議題「自転車乗車用ヘルメットの普及等について」、事務局から説明をお願いします。

(丹羽主幹)

議題「自転車乗車用ヘルメットの普及等について」です。

お手持ちの資料1ページを御覧ください。令和3年10月から自転車用ヘルメット着用の努力義務化、損害賠償責任保険等への加入の義務化が始まりましたが、特にヘルメットの着用は、広く普及しているとまでは言えない状況であります。

事故のデータを御覧ください。令和2年中の自転車乗車中の死者数は526名ですが、その内、頭部の損傷による死亡率は約66%であります。このデータから、自転車乗車中の事故については、頭部を守ることが非常に重要であることがわかります。

次に、令和3年度市民意識調査の結果についてご覧ください。

まずは、18歳以上の1,763名を対象とした調査結果です。令和3年度から調査項目に追加された「自転車に乗るときにヘルメットを着用していますか」の設問について、「はい」と答えた方は6.1%と僅かでありました。

次に、「自転車損害賠償責任保険に加入していますか」の設問について、「はい」と答えた方は53.5%でありました。保険の加入についても、普及しているとまでは言えない状況です。

次に小学校5年生、中学校2年生を対象とした調査で、「日常生活において、自転車に乗るときにヘルメットを着用していますか」の設問について、「はい」と答えた小学校5年生は89.9%、中学校2年生は40.7%でした。特に、中学生のヘルメットの着用率が低いのがわかります。

本市におきましては、自転車用ヘルメットの補助金制度を行っております。

す。小牧市に住民登録のある方が対象で、安全認証を受けた新品のヘルメットを市内の販売店で購入し、申請していただいた方は購入費の1/2、上限額2,000円を補助しております。令和3年9月24日現在、340件の申請をしていただきました。しかし、申請件数だけを見ますと、児童生徒だけでなく、高齢者や現役世代など、まだまだたくさんの方に活用していただけていると思っております。

ヘルメットの着用は、頭部損傷による死亡率を1/4に減らすことができるそうです。少しでも自転車用ヘルメットの重要性を知っていただくため、本市では、広報「こまき」への掲載、中部ケーブルテレビ、小牧市公式YouTubeチャンネルでPR動画を放映、図書館での特集コーナーの設置、小牧工科高校においてヘルメット等のチラシ配布を行いました。更なる普及促進が必要です。

一人でも多くの方にヘルメットを着用してもらえよう、委員の皆様の方策等について審議をお願いします。

(野々川会長)

ヘルメットの普及がなかなか進んでいない中、命に関わるため、ぜひ普及されるよう、ご意見をお願いします。

(加藤隆明委員)

中学生も、他の学校に行くときなど、ヘルメットを着用している印象ですが、学校外ではなかなか着用していない現実があると思います。幼児、児童の親御さんから、重要性を説明するのが、大切だと思います。

(舟橋委員)

中学生の時にヘルメットを被らなくなるのは、ヘルメットの見た目に大きく関わってくると思います。企業とタイアップして、おしゃれなヘルメットを開発するのがいいと思います。例えば、工場で使用する安全靴は、大手メーカーとタイプアップして、かっこよく、安全性も高いので、従業員の中でも普及しています。

ヘルメットの安全性の普及だけでなく、おしゃれでかっこいいヘルメットの開発や、芸能人とコラボして、普及促進のためのユーチューブを流す

など、新しい方法も検討して貰いたい。

(林委員)

補助金を活用して、ヘルメットを購入し、着用してみると、まだまだ普及しておらず、周りの目が気になってしまうのが現状です。

企業に広報したり、50名以上の企業は安全衛生委員会を設けているので、ヘルメットの重要性を訴えていくのが重要だと思います。

(杉山委員)

幼児・児童の時にカッコいいヘルメットを被っているのに、中学生になると白いヘルメットに限定され、普段は被りたくないという気持ちになってしまう。

教育委員会に働きかけ、白いヘルメットに限定せず、デザイン性も高いものを許可すれば、普段の利用も広がっていくと思います。

ヘルメットを被り始めた方の意見では、ヘルメットの重要性を考慮して被り始めたそう değildir。引き続きヘルメットの重要性のPRが重要だと思います。

(野々川会長)

委員の皆様のご提案を参考に、事務局で検討してください。

それでは質問、ご意見等もないようですので、以上で本日の議題等は終了します。その他としてありますか。

【小牧警察署 交通課の説明で、交通安全シミュレーション「VR」体験を代表者4名で実施】

(長縄課長)

長時間にわたり議論いただきましてありがとうございます。今後の協議会でも有意義なご意見、ご提案いただきますようお願いいたします。

これをもちまして、第2回小牧市交通安全・防犯対策協議会を閉会させていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。